

言語背景と中国語習得・学習規則

Language Background and Acquisition and Learning of Chinese Language

竹中 佐英子
Saeko TAKENAKA

Abstract

The aim of this study is comparing the results of the Chinese listening and composition test between L1 and L2, finding out the similarities and differences between them. The results suggest that those who start to learn L2 as children are more likely to reach native speaker levels of listening comprehension and grammatical accuracy than those who begin to learn when they are adults. We also found that some of those whose L2 studies started later were marked highest for grammatical accuracy.

Key Words : acquisition, learning, listening comprehension, grammatical accuracy

キーワード：習得、学習、ヒアリング理解、文法の正確性

0. テーマ選定理由

日本における中国語教育は大方、「日本語を第一言語（母語）とする成人」を教育対象に、彼らが大学、高校など「学校」という場において、ゼロから学ぶことを想定し、カリキュラムを設計し、教材を編集し、教育方法を考察してきた。一方、中国（大陸）人、（中華民国）台湾人と日本人との婚姻により誕生し、家庭内では漢語・台湾国語でコミュニケーションしている者が、日本の学校で中国語を学ぶ場合、日本語を第一言語とする学生と同一カリキュラムの下、同一クラスで、同様の教育を受けることが多いようである。異なる言語背景を持つ学習者に対し、同一の中国語教育を行うことに問題はないのだろうか？

第二言語習得研究では、「第一言語」と「第二言語」はそれぞれ異なる概念を指す。第一言語（first language, L1）とは、幼少期より両親あるいは周囲の環境から自然に、コミュニケーションに用いることを目的に身に付けた言語で、本族語（native language）、母語（mother tongue）とも言う。これに対し、第二言語（second language, L2）とは、多民族国家あるいは地域において、自身と異なる民族とコミュニケーションをするために使う、非本族語を指し（桂詩春

1985. p15)、一定地域内において、学校教育あるいは社会でのコミュニケーションに用いる語としての役割を持っている。例えば、シンガポールやインドなどでは、英語は公共の場や学校教育で用いる第二言語である(蔣祖康1999. p2)。なお、「外国語」は第二言語の一部と考える説と、独立した概念と考える説がある。後者の場合の定義は、ある社会においては普通使用する環境がなく、学校教育あるいは社会でのコミュニケーションに用いられる役割も担っていない、学校の授業内で学ぶ言語である。例えば、中国や日本などでは、英語は外国語という位置づけになる(桂詩春1985. p15, 蔣祖康1999. p2)。

Krashen1985.は、自然なコミュニケーション環境の中である言語を使用し、無意識的(subconscious)に当該言語を身に付ける過程を「習得」(acquisition)、意識的(conscious)に当該言語を学ぶ過程を「学習」(learning)と定義する。習得に当たるのは子どもが母語(第一言語)を身に付けていく過程である。習得は情報伝達を目的とした自然なコミュニケーション環境の中で行われ、習得者(子ども)は言語の形式ではなく、意味に注目する。一方、学習は主に学校の第二言語教育(中国国内の少数民族にとっての漢語教学など)、外国語教育(日本の英語教育など)で行われる。学習者は言語の形式、文法規則に注意し、学習過程の中で間違いを発見、矯正していく。

第一言語習得と第二言語習得、外国語学習の違いは、▽環境▽教授者(父母、教員)▽年齢(幼少期、成人)▽接する方式(口語、書面語)▽使用目的、動機(生存、就職、進学)——などにある。また、第一言語習得は健常者であれば必ず成功するのに対し、第二言語習得、特に外国語学習では成功者が少ない理由は、▽接する時間の量▽認知方式▽第一言語からの転移(transfer)▽感情▽個人差——などにあるとされている(桂詩春 1985. p211, 李哲 2000. p29 ~ 38, 蔣祖康 1999. p3)。

(両)親が漢語・台湾国語母語話者で、家庭内でこうした言語を用いる者は、大学入学後ゼロから中国語を学ぶ日本人に比べ、漢語・台湾国語に接している時間が圧倒的に長い。第二言語習得研究の成果に鑑みるに、前者は漢語・台湾国語を第一(二)言語として習得した者、後者は成人後に中国語を外国語として学習していく者、という異なる言語背景を持つ2つの集団に分けられる。前者には、学校で中国語の授業を受ける前から漢語・台湾国語に関する知識が蓄積されており、口語運用力が高い。後者は聞く、話す能力が前者のレベルに及ぶのは困難であるが、効果的に学習すれば、規範的な文法規則を身に付け、高度な書面語運用力を備えることも可能である。日本の中国語教育の任務は、両者の特徴、具体的な違いをつまびらかにし、それぞれの長所を伸ばす教育を行うことにある。

そこで本稿では、漢語・台湾国語を第一(二)言語とする者、成人後中国語を外国語としてゼロから学ぶ者、留学経験がある者など、異なる言語背景を持つ者の中国語習得・学習規則を探る。その上で、今後の中国語教育研究、中国語学研究がなすべきことを考える。

1. 中国語学習者の調査方法

本稿では、目白大学外国語学部中国語学科（以下“C科”）の学生を対象に行った、中国語ヒアリング・日文中訳試験の結果を分析し、異なる言語背景を持つ者の中国語習得・学習の違いを調査する。

表1は試験の実施要領、受験者の中国語学習歴、留学経験などを示したものである。

表1. 中国語試験の実施要領

グループ	人数	中国語学習・習得方法	実施日	実施場所	持ち込み
1年生	計15人	C科でゼロから1年間学ぶ。	H20. 1. 25	作文の実力試験	一切不可
2年生	計6人	C科でゼロから2年間学ぶ。	H20. 1. 28	読解の実力試験	辞書のみ可
3年生	計15人	C科でゼロから3年間学ぶ。	H20. 1. 24	時事中国語の 期末試験	辞書のみ可
中台 計7(8)人	新1年生3人 1年生3(4)人 2年生1人	家庭内で日本語と共に漢語・台湾国語も用いる。	新1年生は H20. 4. 4	新1年生は オリエン時	
臨済 計17人	1年生1人 2年生3人 3年生13人	北京大学1カ月短期留学プログラム「臨地研修」を履修済。			
4合 計13人	1年生4人 2年生2人 3年生7人	試験実施時、中国語検定試験4級に合格していた。			

試験結果は中国語学習歴、漢語・台湾国語の習得・学習方法、留学経験などの特徴が似通った受験者同士を集めて「1年生」「中台」などと「グループ」分けした上で集計した。表1で「中台」の「1年生」が3(4)人となっているのは、ヒアリング未受験、日文中訳だけ受験した者が1名いるからである。「中台」「臨済」「4合」は受験時の在籍学年が異なる者が入り混じる為、その内訳を示した。「1／2／3年生」「臨済」「4合」には「中台」や高等学校での中国語既習者を一切含まないので、前者5グループは18歳以降大学で中国語を外国語としてゼロから学習した者のグループ、「中台」は幼少期から漢語・台湾国語を第一(二)言語として習得した者だけのグループ、ということになる。そこで文中、前者5グループをまとめて「中国語学習者」、「中台」を「漢語習得者」と呼ぶことがある。「2／3年生」が(中日・日中)辞書を用いて解答したのは、「2／3年生」の中文日訳問題に未習単語が多く含まれていたからである。「1年生」の問題用紙には使用する単語をいくつか【注】で附した。

2. 調査結果

本章では、中国語ヒアリング2種類20問、日文中訳10問の内容、各グループの平均点、解答状況を紹介し、結果を比較、分析する。

2. 1. ヒアリング

ヒアリングは問1、問2の2種類ある。

問1は、中国語の文章を2回読んだ後、文章に関する事を10題、中国語で質問する。質問は問題用紙にプリントアウトしてあり、1度だけ読む。続けて、それに対する解答として、中国語の選択肢3種類（プリントアウトしていない）を2度ずつ読む。学生は文章に最も即した選択肢を1つだけ選び、その記号を解答用紙に書く。

【中国語の文章】

現在十二点半。二宫还没吃午饭。他和朋友一块儿到学生食堂去吃饭。今天他不想吃咖喱饭，想吃面条。学生食堂的饭菜味道不错，也不贵。他常常在那儿吃午饭。今天下午他没有课，到超市去打工。晚上八点一刻回家。

【設問とそれに対する選択肢】

- ①现在几点钟？ a. 十二点二十分。 b. 十二点三十分。 c. 十二点四十分。
- ②二宫吃午饭了吗？ a. 吃了。 b. 还没有。 c. 不知道。
- ③二宫和谁一块儿去学生食堂？ a. 笔友。 b. 朋友。 c. 网友。
- ④今天二宫想吃什么？ a. 咖喱饭。 b. 面条。 c. 粉条。
- ⑤学生食堂的饭菜味道怎么样？ a. 很好。 b. 不好。 c. 不知道。
- ⑥学生食堂的饭菜价格怎么样？ a. 贵。 b. 便宜。 c. 不知道。
- ⑦二宫常常在哪儿吃午饭？ a. 超市。 b. 教室。 c. 食堂。
- ⑧今天下午二宫去哪儿？ a. 超市。 b. 教室。 c. 食堂。
- ⑨今天下午二宫做什么？ a. 故宫。 b. 打工。 + c. 打开。
- ⑩今天晚上二宫几点回家？ a. 八点十五分。 b. 八点三十分。 c. 八点四十五分。

表2. ヒアリング問1グループ別平均点（10点満点）

順位	グループ	問1
1位	中台	9.6
2位	4合	7.8
3位	2年生	7.3
3位	臨済	7.0
5位	3年生	6.7
6位	1年生	6.1
	全体	6.6

表2にヒアリング問1のグループ別平均点を高い方から示す。1位「中台」の平均点は2位を1.8点引き離し、各設問でも③～⑩の8題で正答率が100%であり（表3参照）、成績は大変良好である。北京大学へ1カ月短期留学した「臨済」、学習歴3年の「3年生」の平均点は、学習歴1年の者を4人（30%）含む中国語検定4級合格者「4合」、学習歴2年の「2年生」より低い。似通った選択肢の中から最も適切なものを選ぶ択一型ヒアリング問題を解く上では、択

一型リスニング試験を含む中国語検定4級に合格した「4合」の解答テクニックが功を奏し、学習歴の長さ、留学経験は有利に働いていないことがわかる。

表3. ヒアリング問1各問グループ別平均点

		全体	1年生	2年生	3年生	中台	臨済	4合
①	a	16人 (37%)	8人 (53%)	1人 (17%)	6人 (40%)	1人 (14%)	5人 (29%)	2人 (15%)
	b	25人 (58%)	6人 (40%)	5人 (83%)	8人 (53%)	6人 (86%)	11人 (65%)	11人 (85%)
	c	2人 (5%)	1人 (7%)	0人 (0%)	1人 (7%)	0人 (0%)	1人 (6%)	0人 (0%)
②	a	6人 (14%)	3人 (20%)	0人 (0%)	2人 (13%)	1人 (14%)	1人 (6%)	0人 (0%)
	b	31人 (72%)	9人 (60%)	5人 (83%)	11人 (73%)	6人 (86%)	13人 (76%)	12人 (92%)
	c	6人 (14%)	3人 (20%)	1人 (17%)	2人 (13%)	0人 (0%)	3人 (18%)	1人 (8%)
③	a	1人 (2%)	0人 (0%)	0人 (0%)	1人 (7%)	0人 (0%)	1人 (6%)	0人 (0%)
	b	40人 (93%)	13人 (87%)	6人 (100%)	14人 (93%)	7人 (100%)	16人 (94%)	13人 (100%)
	c	2人 (5%)	2人 (13%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
④	a	12人 (28%)	5人 (33%)	1人 (17%)	6人 (40%)	0人 (0%)	7人 (41%)	4人 (31%)
	b	28人 (65%)	8人 (53%)	4人 (67%)	9人 (60%)	7人 (100%)	10人 (59%)	9人 (69%)
	c	3人 (7%)	2人 (13%)	1人 (17%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
⑤	a	25人 (58%)	7人 (47%)	2人 (33%)	9人 (60%)	7人 (100%)	10人 (59%)	10人 (77%)
	b	6人 (14%)	2人 (13%)	3人 (50%)	1人 (7%)	0人 (0%)	3人 (18%)	2人 (15%)
	c	12人 (28%)	6人 (40%)	1人 (17%)	5人 (33%)	0人 (0%)	4人 (24%)	1人 (8%)
⑥	a	6人 (14%)	3人 (20%)	2人 (33%)	1人 (7%)	0人 (0%)	3人 (18%)	2人 (15%)
	b	26人 (60%)	5人 (33%)	4人 (67%)	10人 (67%)	7人 (100%)	10人 (59%)	10人 (77%)
	c	11人 (26%)	7人 (47%)	0人 (0%)	4人 (27%)	0人 (0%)	4人 (24%)	1人 (8%)
⑦	a	4人 (9%)	2人 (13%)	0人 (0%)	2人 (27%)	0人 (0%)	2人 (12%)	2人 (15%)
	b	7人 (16%)	1人 (7%)	3人 (50%)	3人 (20%)	0人 (0%)	2人 (12%)	0人 (0%)
	c	32人 (74%)	12人 (80%)	3人 (50%)	10人 (67%)	7人 (100%)	13人 (76%)	11人 (85%)
⑧	a	23人 (53%)	5人 (33%)	2人 (33%)	9人 (60%)	7人 (100%)	9人 (53%)	7人 (54%)
	b	13人 (30%)	6人 (40%)	3人 (50%)	4人 (27%)	0人 (0%)	6人 (35%)	3人 (23%)
	c	7人 (16%)	4人 (27%)	1人 (17%)	2人 (13%)	0人 (0%)	2人 (12%)	3人 (23%)
⑨	a	4人 (9%)	1人 (7%)	0人 (0%)	3人 (20%)	0人 (0%)	2人 (12%)	2人 (15%)
	b	37人 (86%)	14人 (93%)	6人 (100%)	10人 (67%)	7人 (100%)	13人 (76%)	11人 (85%)
	c	2人 (5%)	0人 (0%)	0人 (0%)	2人 (13%)	0人 (0%)	2人 (12%)	0人 (0%)
⑩	a	31人 (72%)	9人 (60%)	4人 (67%)	11人 (73%)	7人 (100%)	13人 (76%)	10人 (77%)
	b	5人 (12%)	2人 (13%)	0人 (0%)	3人 (20%)	0人 (0%)	3人 (18%)	3人 (23%)
	c	7人 (15%)	4人 (27%)	2人 (33%)	1人 (7%)	0人 (0%)	1人 (6%)	0人 (0%)

表3はヒアリング問1各設問のグループ別平均点である。正答率が6割以下の設問は、①“十二点三十分”⑤“(味道) 很好”⑥“便宜”⑧“(去) 超市”である。①⑤⑥は読み上げた中国語の文章の中ではそれぞれ“十二点半”“不错”“不贵”と言ったが、選択肢の中には文章の中にある表現と同一のものが無い。一方、③⑨は文章の中ではそれぞれ“朋友”“打工”と言い、

選択肢の中にも全く同一のものがあり、正答率は全体でそれぞれ93%、86%と高い。⑧は正解“超市”に対し、発音の似た“教室”を選んだ者が全体で30%に上る。この結果は、中国語学習者にとって、聞き取った音と同一の音を含む選択肢を選びさえすれば良い設問は容易に解答できるのに対し、聞き取った音に対する義（意味）の理解が必要な設問は解答が困難であることを示している。

問2は、中国語の文章を3回読み上げる。その間に、文章に関する質問10題に日本語で解答する。質問は問題用紙に日本語でプリントアウトしてある。

【中国語の文章】

田中年子今年十九岁。她是目白大学汉语专业一年级的学生。她星期一上午有一节汉语课。她们班一共有十二个学生。她们的汉语老师是中国人、姓陈。她觉得汉语语法容易、发音难。星期六和星期天她不去学校、在家上网。明天她和同班同学一起去买东西。

【設問】

- ⑪田中年子（Tiánzhōng Niánzǐ）さんは今年何歳ですか？
- ⑫田中年子さんはどこの大学の学生ですか？
- ⑬田中年子さんは何年生ですか？
- ⑭田中年子さんは何曜日に中国語の授業がありますか？
- ⑮田中年子さんのクラスには全部で何人の学生がいますか？
- ⑯田中年子さんの中国語の先生は何という名字ですか？
- ⑰田中年子さんは中国語の発音はどうだと思っていますか？
- ⑱田中年子さんが学校へ行かないのは何曜日ですか？
- ⑲田中年子さんは学校へ行かない日に何をしていますか？
- ⑳田中年子さんは明日何をしますか？

表4. ヒアリング問2グループ別平均点（10点満点）、各設問正答率

順位		平均	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
1位	中台	9.6	100%	100%	100%	100%	100%	100%	86%	86%	57%	100%
2位	4合	8.3	100%	100%	100%	77%	100%	31%	92%	92%	0%	92%
3位	臨済	7.9	100%	100%	94%	71%	100%	29%	94%	88%	0%	100%
3位	3年	7.9	100%	100%	100%	80%	100%	27%	87%	93%	0%	100%
5位	2年	7.6	83%	100%	83%	50%	100%	33%	100%	67%	17%	83%
6位	1年	7.2	100%	93%	100%	53%	67%	53%	60%	53%	0%	73%
	全体	7.6	98%	98%	98%	70%	88%	49%	79%	74%	12%	89%

表4はヒアリング問2のグループ別平均点を高い方から示すと共に、各グループの各設問の正答率も示している。1位「中台」の平均点は2位を1.3点引き離し、各設問でも⑱を除き正答

率が86～100%であり、成績は概ね良好である。以下、グループ別平均点は、2位が中国語検定4級合格者「4合」、3位が北京大学へ1カ月短期留学した「臨済」と学習歴3年の「3年生」、5位が学習歴2年の「2年生」、6位が学習歴1年の「1年生」と続く。択一型ヒアリング問題（問1）と異なり、解答をゼロから書く必要がある記述型ヒアリング試験（問2）を解く上では、学習歴が長いグループの方が短いグループより成績が良く、留学経験も有利に働いていることがわかる。正答率が低い設問は、⑭「月曜」⑯「陳・チェン・チン」（姓陳）⑰「家でインターネットをする」（在家上网）である。⑯は「シンチェン」という誤答が全体で37.7%、⑰は無回答が全体で33%、「家にいる」という不完全な解答が全体で16%ある。この結果は、中国語学習者にとって、意味を知らない、あるいは既習でも意味を忘れた語の音から義（意味）を推測するのは困難であることを示す。

2. 2. 日文中訳

日文中訳問題は、2、3年生は辞書を用いて解答した。1年生は辞書を用いず解答したため、問題用紙に使用してもらいたい単語を【注】で附した（理由は第1章参照）。

筆者はこの試験実施前、(両)親が漢語・台湾国語母語話者である「中台」（新1年生3人、1年生3人、2年生1人）に対し、日文中訳100題を課した。この100題のうち、解答に大きな特徴が見られた10題を今回の日文中訳問題として出題した（設問は2. 3. 参照）。

表5. 日文中訳グループ別平均点（80点満点）

順位	グループ	得点
1位	中台	68
2位	4合	64
3位	臨済	60
4位	3年生	59
5位	2年生	58
6位	1年生	54

表5に日文中訳のグループ別平均点を高い方から示す。1位の「中台」の平均点は2位を4点引き離し、成績は大変良好である。辞書を用いず解答した学習歴1年の者を4人（30%）含む「4合」の平均点は、学習歴3年の「3年生」より高い。また、辞書を用いず解答した学習歴1年の「1年生」のうち、C科1年生必修3科目（作文／読解／会話）の成績上位者5人だけに限ると、その得点は全員68点以上であり、「3年生」「2年生」の平均点より10点以上高い。この結果は、中国語学習者でも言語学習適正能力が高いと、学習歴の短さ、解答条件のハンデを克服できることを示す。以下、各設問の解答状況を分析する。

①あなたは留学したことがありますか？

a. 你留过学吗？

- b. 你去过留学吗？
 c. 你有留学过吗？
 d. その他

	全体	1年生	2年生	3年生	中台	臨済	4合
a	14人(32%)	8人(53%)	1人(17%)	1人(7%)	4人(50%)	2人(12%)	4人(31%)
b	12人(27%)	2人(13%)	2人(33%)	8人(53%)	0人(0%)	9人(53%)	7人(53%)
c	4人(9%)	0人(0%)	0人(0%)	0人(0%)	4人(50%)	0人(0%)	0人(0%)
d	14人(32%)	5人(33%)	3人(50%)	6人(40%)	0人(0%)	6人(35%)	2人(15%)

離合詞“留学”が動態助詞“过”を伴った場合どう運用すべきか、を調査する設問である。「1年生」の5割が“你留过学吗？”と解答したのに対し、「3年生」「臨済」「4合」の5割が“你去过留学吗？”と解答、「3年生」よりも学習歴が短く、「臨済」も1人しかいない「1年生」の方が正確に運用している。「中台」では、中国大陸系4人全員が“你留过学吗？”、台湾系4人全員が“你有留学过吗？”と解答している。

②外は雨が降っている。

- a. 外边下着雨(呢)。
 b. 外边在下雨。
 c. 外边下雨。
 d. その他

	全体	1年生	2年生	3年生	中台	臨済	4合
a	18人(41%)	8人(53%)	2人(33%)	7人(47%)	1人(13%)	6人(35%)	9人(69%)
b	7人(16%)	2人(13%)	0人(0%)	2人(13%)	3人(38%)	0人(0%)	2人(15%)
c	7人(16%)	2人(13%)	1人(17%)	3人(20%)	1人(13%)	0人(0%)	0人(0%)
d	12人(27%)	3人(20%)	3人(50%)	3人(20%)	3人(38%)	11人(65%)	2人(15%)

「…ている」を表すのに動態助詞“着”と副詞“在”のどちらを使うか、を調査する設問である。「4合」の7割、「1／3年生」の5割、「2年生」の3割が“外边儿下着雨呢”と“着”を使う割合が高いのに対し、「中台」は“外边儿在下雨呢”“外边儿(在)下雨了”がそれぞれ3人(4割)で、“着”より“在”を使う者の方が多い。

③もう少しゆっくり話して下さい。

- a. 请再慢(一)点儿说(吧)。
 b. 请再说慢(一)点儿。
 c. その他

	全体	1年生	2年生	3年生	中台	臨済	4合
a	12人(27%)	4人(27%)	2人(33%)	3人(20%)	3人(38%)	3人(18%)	5人(38%)
b	8人(18%)	1人(7%)	0人(0%)	3人(20%)	4人(50%)	1人(6%)	0人(0%)
c	24人(55%)	10人(67%)	4人(67%)	9人(60%)	1人(13%)	12人(71%)	8人(62%)

「少しゆっくり話す」を“形容词+‘点儿’+动词”と“动词+形容词+‘点儿’”のどちらの語順で表すか、を調査する設問である。「1／2／3年生」「臨済」「4合」の6割以上は*“说得慢一点儿／一下” * “一点儿／一下说得慢”などの非文で、中国語学習者にとってはいずれも駆使するのが困難であることがわかる。「1／2／3年生」「臨済」「4合」では2～3割が“请再慢（一）点儿说”と解答、“请再慢（一）点儿说”は「1年生」「臨済」に1人、「3年生」に3人と少数派であるのに対し、「中台」では“请再说慢（一）点儿”が4人（5割），“请再慢（一）点儿说”が3人（4割）で、“动词+形容词+‘点儿’”の方が若干多い。

④彼は中国語（を話すの）はどうですか？

- a. 他（说）汉语说得怎么样？
- b. 他说汉语怎么样？
- c. 他说／講的汉语怎么样？
- d. その他

	全体	1年生	2年生	3年生	中台	臨済	4合
a	13人(30%)	8人(53%)	2人(33%)	2人(13%)	1人(13%)	4人(24%)	6人(46%)
b	9人(20%)	3人(20%)	3人(50%)	2人(13%)	1人(13%)	3人(18%)	2人(15%)
c	6人(14%)	1人(7%)	0人(0%)	0人(0%)	5人(63%)	0人(0%)	0人(0%)
d	16人(36%)	3人(20%)	1人(17%)	11人(73%)	1人(13%)	10人(59%)	5人(38%)

目的語を伴う様態補語の運用を調査する設問である。「3年生」の7割、「臨済」の6割、「4合」の4割、「1／2年生」の2割は*“他说得汉语怎么样？”などの非文で、中国語学習者にとっては目的語を伴った様態補語を正確に運用するのは困難であることがわかる。「1年生」「4合」の5割、「2年生」の3割、「臨済」の2割、「3年生」の1割が“他（说）汉语说得怎么样？”と解答、「2／3年生」よりも学習歴の短い「1年生」の方が様態補語を正確に運用し、中国語検定4級合格者「4合」だと様態補語の使用規則はある程度マスターしている。「中台」では、“他说／講的汉语怎么样？”が5人（6割），“他（说）汉语说得怎么样？”“他说汉语怎么样？”がそれぞれ1人で、様態補語より定中结构“动词+‘的’+名词”（彼が話す中国語）と発想する者の方が多い。

⑤チケットはきちんと予約しましたか？

- a. 票订／预约好了吗？
 b. 票好（好儿）订了吗？
 c. その他

	全体	1年生	2年生	3年生	中台	臨済	4合
a	7人(16%)	3人(20%)	1人(17%)	0人(0%)	3人(38%)	0人(0%)	2人(15%)
b	13人(30%)	4人(27%)	2人(33%)	6人(40%)	1人(13%)	8人(47%)	7人(52%)
c	24人(54%)	8人(53%)	3人(50%)	9人(60%)	4人(50%)	9人(53%)	4人(31%)

「きちんと」を結果補語、状語のどちらで表すか、を調査する設問である。「1／2／3年生」「臨済」の半数以上は*“订了票好好儿吗？”などの非文、全体では7人(16%)が無回答で、中国語学習者にとっては「きちんと」を中国語に訳出するのは困難であることがわかる。「中台」では、3人(4割)が結果補語、1人が「きちんと」の部分の訳出していない“订票了吗？”、台湾系1人が台湾国語の影響を受けた“票有好预约了嗎？”という解答である。

⑥彼はもう家へ帰って行きましたか？

- a. 他已经回家去／来（了）吗？
 b. 他已经回去／来家（了）吗？
 c. 他已经回家（了）吗？
 d. その他

	全体	1年生	2年生	3年生	中台	臨済	4合
a	8人(18%)	4人(27%)	1人(17%)	1人(7%)	2人(25%)	1人(6%)	2人(15%)
b	7人(16%)	1人(7%)	1人(17%)	4人(27%)	1人(13%)	4人(24%)	4人(31%)
c	21人(48%)	7人(47%)	4人(67%)	7人(47%)	4人(50%)	9人(53%)	7人(54%)
d	8人(18%)	3人(20%)	1人(17%)	3人(20%)	1人(13%)	3人(18%)	0人(0%)

「家へ帰って行く」を“动词＋处所词＋简单趋向补语”という語順で表せるか、を調査する設問である。いずれもグループも半数以上が“去”を用いず“回家了”と解答している。「3年生」「4合」の3割、「臨済」の2割、「中台」の台湾系1人が“动词＋简单趋向补语＋处所词”という語順にしている。

⑦寝付けなくても、緊張しないで。

- a. 睡不着、不用／不要／别紧张。
 b. 不能／没有睡着、不用／不要／别紧张。
 c. その他

	全体	1年生	2年生	3年生	中台	臨済	4合
a	10人(23%)	0人(0%)	1人(17%)	4人(27%)	5人(63%)	3人(18%)	1人(8%)
b	5人(11%)	0人(0%)	2人(33%)	3人(20%)	0人(0%)	4人(24%)	5人(38%)

c	29人(66%)	15人(100%)	3人(50%)	8人(53%)	3人(38%)	10人(59%)	7人(54%)
---	----------	-----------	---------	---------	---------	----------	---------

「寝付けない」を可能補語を用いて表すことができるか、を調査する設問であるが、「1年生」は全員、「2/3年生」「臨済」「4合」の半数以上は“不能/不可以/不会睡觉/入睡”など、可能補語も結果補語も使っていない。「2/3年生」「臨済」「4合」で“睡不着”“不能/不可以/不会睡着”と解答した者は辞書を上手く調べることができたからであり、辞書持ち込みでなければ「1年生」同様、可能補語も結果補語も使えなかったのではないかと考えられる。一方、「中台」は可能補語を使った者が5人(6割)、可能補語も結果補語も使わなかった者が3人(4割)で、中国語学習者に比べ、可能補語の使用率が圧倒的に高い。

⑧この腕時計はあの腕時計よりずっと良い。

- a. 这块手表比那块手表好得多/多了。
- b. 这块手表比那块手表还/更好。
- c. 这块手表比那块手表很/真/非常好。
- d. その他

	全体	1年生	2年生	3年生	中台	臨済	4合
a	10人(23%)	1人(7%)	2人(33%)	4人(27%)	3人(38%)	5人(29%)	5人(38%)
b	6人(14%)	0人(0%)	0人(0%)	4人(27%)	2人(25%)	4人(24%)	2人(15%)
c	17人(39%)	8人(53%)	3人(50%)	4人(27%)	2人(25%)	4人(24%)	4人(31%)
d	11人(25%)	6人(40%)	1人(17%)	3人(20%)	1人(13%)	4人(24%)	2人(15%)

“比”字句で「ずっと良い」をどう表すか、を調査する設問である。「1/2年生」の5割、「3年生」「4合」の3割が*“比那块很/真/非常好”などの非文である。「ずっと良い」を、「4合」の約4割、「2/3年生」「臨済」の3割、「1年生」1人が“好多了/好得多”、「3年生」の3割、「臨済」の2割、「4合」の15%が“还/更好”と解答している。「中台」では、“好多了/好得多”が3人(4割)、“还/更好”が2人(25%)で、台湾系2人(25%)が*“比那块很/真/非常好”という非文で、日本語の負の転移が見られたのは台湾では学校教育を受けたことがない者である。

⑨今日は昨日ほど寒くない。

- a. 今天没有昨天(那么/那样)冷。
- b. 今天比昨天不冷。
- c. その他

	全体	1年生	2年生	3年生	中台	臨済	4合
a	15人(34%)	3人(20%)	3人(50%)	6人(40%)	3人(38%)	7人(41%)	7人(54%)
b	12人(27%)	2人(13%)	1人(17%)	5人(33%)	4人(50%)	4人(24%)	2人(15%)

c	17人(39%)	10人(67%)	2人(33%)	4人(27%)	1人(13%)	16人(94%)	4人(31%)
---	----------	----------	---------	---------	---------	----------	---------

“比”字句の否定をどう表すか、を調査する設問である。「臨済」の9割、「1年生」の7割、「2／3年生」「4合」の3割が*“今天不冷比昨天”などの非文、あるいは“今天不比昨天冷”（今日は昨日に負けず劣らず寒くはない）と異なる意味に訳しており、中国語学習者にとって、“比”字句の否定は運用困難であることがわかる。また、中国（大陸）系、台湾系それぞれ2人が“今天比昨天不冷”と解答、「中台」にも日本語の負の転移が見られる。

⑩あなたはどこで中国語を勉強したのですか？

- a. 你（是）在哪儿学汉语的／学的汉语？
- b. 你在哪儿学汉语（呢）？
- c. その他

	全体	1年生	2年生	3年生	中台	臨済	4合
a	3人(7%)	0人(0%)	1人(17%)	0人(0%)	2人(25%)	0人(0%)	0人(0%)
b	25人(57%)	12人(80%)	3人(50%)	5人(33%)	5人(63%)	13人(76%)	10人(77%)
c	16人(36%)	3人(20%)	2人(33%)	10人(67%)	1人(13%)	4人(24%)	3人(23%)

動作が行われた時間や場所を強調する“是…的”を使えるか、を調査する設問であるが、出題の際、「どこで勉強したか」の前に「あなたは中国語がお上手ですね」など、すでに学んでいることを表すくだりをおこななかったため、出題の意図が伝わらず、全体的に“在哪儿学汉语”という解答が多い。今後、出題の仕方を変えて再検討したい。

3. 提言

以上の分析結果に鑑み、中国語教育研究、中国語学研究に対し、以下の4点を提言する。

（1）学習時間数、カリキュラム、中国語主専攻者の入学選抜方法を再考する。「2／3年生」よりも学習歴が短い「1年生」の方が問2①離合詞④様態補語を正確に運用し、1カ月間留学経験のある「臨済」の択一型ヒアリング問1の成績は、日本国内で中国語検定試験リスニングに向けて勉強し、解答技術を身に付けた「4合」に及ばない。原因は学習動機、言語学習適性、学習ストラテジーの有無にある。C科非第一志望入学者は「3年生」が73%、「2年生」が42%、「1年生」が12%である（竹中2008.）。学習動機の強さは言語運用の正確性を高めると考えられる。「1年生」は「2／3年生」に比べ、言語学習適性の高い者が多い（表5以下の説明参照）。似通った音同士の些細な違いを区別する、音が表す義（意味）を判断する能力は、中国語検定試験の対策学習など、一定の訓練を経ると身に付いていく。中国語教育研究ではまず、中国語学習適性の高い学生の獲得方法、日本国内で運用力を向上させる教育法を考察すべきである。

（2）日本語母語話者の中国語音声認知を調査する。心理言語学は「心的辞書（mental lexicon）には単語の形、義、音は別々に存在する」と考える。だから音声言語を理解するため

には、音から心的辞書にアクセスする方法を身に付けるだけでなく、形、音、義、統語などの情報が効果的に連結した心的辞書を構築しておく必要がある(桂詩春2000. p250)。ソシユールは「漢語は音声を理解する際、文字(漢字)に依存する傾向がある」と指摘している(索緒尔 p51)。音声中国語の理解には英語、日本語などと比べ、文字が動員される、というのである。中国語学研究は漢語と漢字の関係を解明する必要がある。形、音、義三位一体の構築には読解が効果的であろう。大量の読解を通じ、心的辞書に大量に語彙、文型を蓄積した上で、聞き取った音声から蓄積した知識にアクセスして検索する訓練をすれば、ヒアリング力の向上に寄与する。中国語教育研究は、4技能(聞く、話す、読む、書く)の関連性、その向上方法を分析すべきである。

(3) 漢語・台湾国語を第一(二)言語とする者、中国語既習者などに対し、成人後中国語をゼロから学習する者とは異なるカリキュラムを設計する。第二言語習得研究はすでに第一言語、第二言語、外国語の習得・学習の相違を指摘しているが、本稿の分析でも、「中台」の得点は他のグループを引き離し、第一(二)言語として習得した者と、外国語として学習した者では、その運用に大きな違いがあることがわかった。一般的な日本人学習者と同じの教室で、彼らが習得しやすい事項から困難な事項へと配列した教材を用いた教育では、「中台」の蓄積を活用し、更に向上させるには非効率的である。C科ではすでに「中台」だけを対象にした特別授業を行っているので、今後教育結果を総括、分析したい。

(4) 台湾国語の調査、理解に努める。大陸漢語(北京語)の教材は日本国内で容易に入手できるが、教育現場には台湾国語を第一(二)言語とする学生もいる。台湾国語は発音(法国 fàguó, 和 hàn)、語彙(“自行车”“爱好”ではなく“脚踏车”“兴趣”を使う、“空调”ではなく“冷气”(冷房)“暖气”(暖房)と分ける)、文法(“有+动词”)など、漢語との相違点が少なくない。入門から上級迄詳細かつ体系的に学べる台湾国語教材の出現を求めたい。

【参考文献】

- Krashen, S. 1985. *The Input Hypothesis: Issues and Implications*. London: Longman
 索緒尔著 高名凱译 1980. 《普通语言学教程》, 商务印书馆
 桂詩春编著 1985. 《心理语言学》, 上海外语教育出版社
 桂詩春编著 2000. 《新编心理语言学》, 上海外语教育出版社
 蒋祖康 1999. 《第二语言习得研究》, 外语教学与研究出版社
 李哲 2000. 《第二语言习得研究》, 山东大学出版社
 竹中佐英子 2008. 「中国語専攻に関する一考察(三)」, 『目白大学高等教育研究』第14号、p91-104